



CHALLENGING SPIRIT

～ 海洋インフラを支える技術者たち ～

vol.5

東北地方唯一の国際拠点港湾である仙台塩釜港。その一翼を担う石巻港区・雲雀野地区では、大規模地震にも耐えられる水深12mの耐震強化岸壁の整備が進められている。

現在、対岸に位置する作業ヤードでは、岸壁本体となるスリットケーソン(寸法12m×20m×15.2m、重量2,547t)3函が製作中だ。

この日、現場では総勢35名の技術者や作業員が分担・協力しながら、「鉄筋の組立」、「遠隔臨場(鉄筋検査)」、

「型枠の組立」の各作業工程を同時並行で進めていた。

土木技術者として33年のキャリアを持つ安保良平所長(現場代理人)は現場で施工管理をするこの仕事の魅力について、こう話してくれた。「長期間にわたって、多くの関係者が協力し合い、直面する様々な課題やトラブルを一つ一つ克服しながら、一つのプロジェクトを進めていく。それを無事に完遂した時に得られる達成感は何事にも代え難いものだ」。



撮影/文：西村尚己(2025年5月27日撮影)

工事名：令和6年度 仙台塩釜港石巻港区雲雀野地区岸壁(-12m) 本体工事(その2)

発注者：国土交通省東北地方整備局

受注者：あおみ建設株式会社



<プロフィール>

西村尚己 / Naoki Nishimura

株式会社アフロのフォトグラファー(アフロスポーツ所属)。1994年、大阪大学大学院工学研究科修了後、運輸省(現国土交通省)入省。本省、北海道開発局、中部・近畿・九州地方整備局、下関市、中部国際空港線でインフラ整備に携わりながらアマチュアカメラマンとして活動。2016年、同省を退職し、アフロに入社。オリンピックをはじめ国内外のスポーツ撮影を中心に活動中。